

### 参加アーティスト・企画内容発表（第二弾）

### さっぽろ雪まつりにて公式プログラムも公開されます

札幌国際芸術祭実行委員会では、大友良英をゲストディレクターに迎え、2017年8月に開幕する札幌国際芸術祭2017（略称 SIAF2017）の準備を進めています。

2016年8月7日に第一弾の発表を行い、参加アーティスト13組、メインビジュアルとシンボルマーク、進行中のプロジェクトの内容を紹介しました。

このたび、第二弾となる、参加アーティストとプロジェクト、そしてこの冬開催されるSIAF2017の公式プログラムを発表します。

今回は、新たに、さまざまなジャンルを横断し、あらゆる表現を取り入れながら活躍するアーティスト9組と2つのプロジェクトを追加しました。

また、冬の間もさまざまな取り組みを行っていきます。

そのうちのひとつとして、2月には、約200万人が訪れる国際イベント「さっぽろ雪まつり」に、SIAF2017の参加アーティストの岸野雄一が監修した大雪像が登場。高さ15メートルにもなる大雪像を使った新作パフォーマンスを披露します。

SIAF2017は、すでに、市民参加型プロジェクトを実施したり、参加アーティストが精力的に市内をリサーチしたりしながら、開催に向けて動き続けています。

2017年8月、さわやかな夏の札幌に、美術、音楽の領域に留まらない表現が出現します。

ぜひ、SIAF2017にご注目ください。



## 開催概要

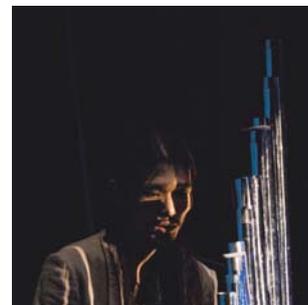
名称	札幌国際芸術祭2017 (SIAF2017) <sup>サイアフ</sup>	
テーマ	芸術祭ってなんだ？	
開催期間	2017年8月6日(日)～10月1日(日)【57日間】	
会場	札幌芸術の森／モエレ沼公園／まちなかエリア／円山エリア／札幌市資料館／ JRタワープラニスホール／札幌大通地下ギャラリー 500m美術館 ほか	
ゲストディレクター	大友 良英	
参加アーティスト [第一弾] 2016.8.7現在	ARTSAT × SIAFラボ dj sniff EYヨ 堀尾 寛太 マレウレウ 毛利 悠子 中崎 透	大友 良英 + 青山 泰知 + 伊藤 隆之 刀根 康尚 梅田 哲也 ユエン・チーワイ  レトロスペース坂会館 大漁居酒屋てっちゃん
参加アーティスト [第二弾]	藤田 陽介 石川 直樹 岸野 雄一 今野 勉 クワクボリョウタ	Sachiko M さわ ひらき テニスコーツ 宇川 直宏
主催	札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市	
WEB	<a href="http://siaf.jp">http://siaf.jp</a>	
Facebook	<a href="https://www.facebook.com/siaf2014info">https://www.facebook.com/siaf2014info</a>	
Twitter	<a href="https://twitter.com/siaf_info">https://twitter.com/siaf_info</a>	
公式ブログ「Daily SIAF」	<a href="http://daily.siaf.jp">http://daily.siaf.jp</a>	

### 参加アーティスト（第二弾）

#### 藤田 陽介〈日本〉 FUJITA YOSUKE

広島県生まれ。香川県出身。音楽家。2009年、空想を具現化した完全自作のパイプオルガンを製作。その自作パイプオルガンと声（ホームメイやイヌイット等特殊歌唱など）を主軸に、水や火、生物から新しい音を見出すことに関心を持ち、常に多様なメディアや事象を音楽に取り込んでいく。ソロの活動を中心に、EYヨ（ボアダムス）とのコラボレーション舞台「メモリーム」や、山川冬樹との公演「カントリー・ジェントルメン」など、コラボレーション・ワークも多数。映画音楽やアニメーション音楽の制作、サウンド・インスタレーションといった展示活動など、あらゆる領域で作品を発表する。

<http://fujita-yosuke.moo.jp>



撮影：白井 晴幸

#### 石川 直樹〈日本〉 ISHIKAWA NAOKI

1977年東京都生まれ。写真家。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2000年、「Pole to Poleプロジェクト」に参加して北極から南極を人力踏破。2001年、7大陸最高峰登頂を達成。人類学や民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。写真集『CORONA』（青土社）により第30回土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』（集英社）ほか多数。

<http://www.straighttree.com>



#### 岸野 雄一〈日本〉 KISHINO YUICHI

1963年東京都生まれ。音楽家・著述・講師など、多岐に渡る活動を包括する名称としてスタヂストを名乗り、東京藝術大学大学院映像研究科や美学校などで教鞭をとる。自身のプロジェクト「ヒゲの未亡人」「WATTS TOWERS」などでの活動のほか、海外からのアーティスト招聘やオーガナイズ、イベント企画を数多く手がける。テレビ・ラジオの出演や音楽批評、映画批評の執筆、講演も数多い。制作総指揮／主演を担当した音楽劇「正しい数の数え方」が、第19回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門大賞を受賞した。自身が主宰するレーベル「Out One Disc」では、OORUTAICHIやGangpol&Mitなど個性豊かなアーティストをプロデュース。常に革新的な“場”を模索している。



### 今野 勉 (日本) KONNO TSUTOMU

1936年秋田県生まれ。4歳で北海道夕張市に移住。夕張南高校卒。1959年、東北大学卒、ラジオ東京（現・TBSテレビ）入社、テレビ演出部配属。ドラマ『土曜と月曜の間』で、ドラマ部門では日本初となるイタリヤ賞受賞。シリーズドラマ『七人の刑事』などを演出。1970年、TBSテレビ退社、日本初のテレビ番組制作会社テレビマンユニオン創立。以降『遠くへ行きたい』（読売テレビ）、『天皇の世紀』（TBS）、『地の底への精霊歌』（NHK）などのドキュメンタリー、『海は甦える』（TBS）などのドラマ、『欧州から愛をこめて』（日本テレビ）などのドキュメンタリー・ドラマを演出。芸術選奨文部大臣賞など受賞多数。1996年、夕張市市民栄誉賞。1998年、長野オリンピック開閉会式会場演出担当。現在テレビマンユニオン最高顧問、(社)放送人の会会長、東京夕張会会長など。



撮影：国了在

### クワクボリョウタ (日本) KUWAKUBO RYOTA

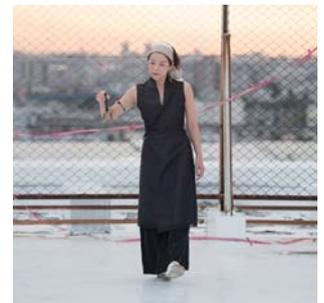
1971年栃木県生まれ。アーティスト／情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 准教授／多摩美術大学情報デザイン学科非常勤講師。1998年に明和電機との共作《Bitman》を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション《10番目の感傷(点・線・面)》以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。そのほかの代表作に《ビデオバルブ》、《PLX》や、Sony CSLに開発参加した《ブロックジャム》、《ニコダマ》などがある。ソロ活動のかたわら、生活と実験のアートユニット「パーフェクトロン」の一員としても活動している。  
<http://ryotakuwakubo.com>



### Sachiko M (日本)

即興演奏家／作曲家。テスト用の信号音(サインウェーブ)を使った電子楽器を演奏し、世界的に活躍する即興音楽家。2003年アルスエレクトロニカでゴールドデニカ(最優秀賞)受賞。サウンドインスタレーション作品発表、写真集出版など活動が多岐にわたるなか、NHK連続テレビ小説『あまちゃん』劇中歌の作曲に参加。大友良英と共に手がけた「潮騒のメモリー」で第55回日本レコード大賞作曲賞受賞。以降、ドラマの劇中歌を中心に作曲活動を開始。現在「アジア・サウンズ・リサーチ」プロジェクトディレクターとして、「音楽」と「美術」の間に切り込む新たな形の発表を試み続けている。

<http://teamsachikom.wixsite.com/sachiko-m>



OPEN GATE 2016&17 Photo: Win Win

### さわ ひらき〈日本〉 SAWA HIRAKI

1977年石川県生まれ。心象風景や記憶の中にある感覚といった実体のない領域を、映像・立体・平面などを巧みに操り構成したビデオインスタレーションで表現する。現実にはありえない光景を描きながら、どこか親しみを感じさせる世界を展示空間に生み出し、見る人の想像力に働きかけるような作品を発表し続けている。主な個展に「Under the Box, Beyond the Bounds」(東京オペラシティ アートギャラリー、2014年)、「Whirl」(神奈川県民ホール、2012年)、グループ展にリヨン・ビエンナーレ(2013年)、シドニー・ビエンナーレ(2010年)、アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2009年)など。



### テニスーツ〈日本〉 Tenniscoats

1996年頃結成。さや(ヴォーカルほか)と植野隆司(ギターほか)によるバンド。国内外の多数のレーベルからの作品発表やツアー・ライブを重ね、さまざまなバンドやミュージシャンとのコラボレーションも多数。長年のキャリアがありながらも、いつも結成当初のような状態で、まったく型にはまらない温かくもクールな活動と演奏を続けている。

<http://tenniscoats.blue/>



### 宇川 直宏〈日本〉 UKAWA NAOHIRO

1968年香川県生まれ。映像作家／グラフィックデザイナー／VJ／文筆家／京都造形芸術大学教授、そして“現在美術家”。多岐に渡る活動を行う全方向的アーティスト。既成のファインアートと大衆文化の枠組みを抹消し、自由な表現活動を行っている。ライブストリーミングスタジオ兼チャンネル「DOMMUNE」は、2010年3月の開局と同時に記録的なビューアー数をたたき出し、国内外で話題を呼び続ける。2016年にはアルスエレクトロニカにステージ幅500mのサテライトスタジオを開設し、現地オーストリアからの配信が話題となった。文化庁メディア芸術祭審査委員(2013～2015年)。アルスエレクトロニカサウンドアート部門審査委員(2015年)。高松メディアアート祭(2015年)ではゼネラルディレクター／キュレーター／審査委員長の三役を務める。



札幌国際芸術祭事務局

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 FAX: 011-218-5154 E-MAIL: [press@siaf.jp](mailto:press@siaf.jp) WEB: <http://siaf.jp>

## プロジェクト紹介 (第二弾)

DOMMUNE UNIVERSITY  
OF THE ARTS  
「THE 100 JAPANESE  
CONTEMPORARY ARTISTS」  
season 5

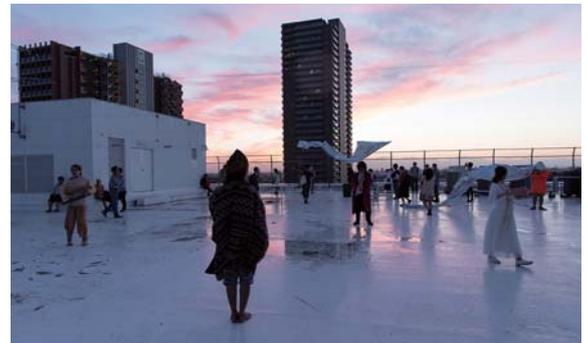


DOMMUNEは2010年3月の開局以来、トーク&ライブを全世界に発信し続けるインターネットストリーミング放送局です。首謀者である宇川直宏は、DOMMUNEスタジオで日々産み出される番組の撮影行為、配信行為、記録行為を、自らの“現在美術”作品と位置づけています。SIAF2017では、現代日本を代表するアーティスト100人の個人史を紐解く、自叙伝的インタビュー番組シリーズのシーズン5を展開するべく、札幌市内にサテライトスタジオ＝DOMMUNE SAPPORO!を開設し、日本・現代美術の“いま”と、次代につながる代表的アーティストの個人史やコンセプトをライブ配信するほか、スタジオ併設ギャラリー（予定）にて作品展示やアーカイブ上映、音楽プログラムの配信などを行います。

企画協力：山本現代

<http://www.dommune.com>

## OPEN GATE 2017 ～動き続ける展覧会～



OPEN GATE 2016.11 撮影：渡部 勇介

「OPEN GATE」とは、Sachiko Mがプロジェクト・ディレクターを務める「アジア・サウンド・リサーチ」\*が行う、ASEAN地域のリサーチから生まれた新しい形の展覧会です。日々会場で更新される展示作品にサウンドパフォーマンスを絡ませ、音と美術が今までにない形でコラボレーションしていく独特の空間創出を特徴としています。2015年 Hin Bus Depot (マレーシア・ペナン島)、2016年あいちトリエンナーレ2016 (愛知県岡崎市)に続く開催となるSIAF2017では、札幌らしい広大な土地を利用し、ASEAN諸国や日本の美術家、音楽家が参加して、場所や環境を共有する中から生まれる表現を探ります。

\*国際交流基金アジアセンターが主催するアジアの音楽交流プロジェクト「アンサンブルズ・アジア」の一部門

<http://www.soundsresearch.com>

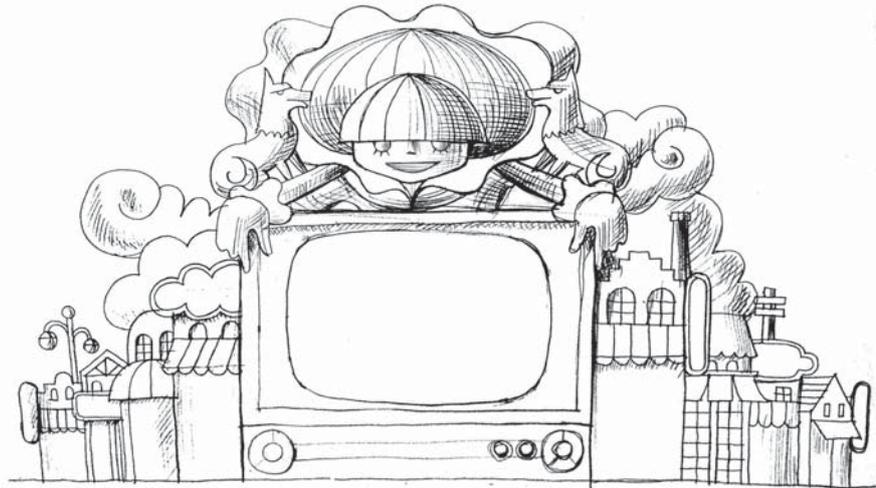
### 2017年冬に開催するプログラム

さっぽろ雪まつり×札幌国際芸術祭2017

#### トット商店街

開催期間：2017年2月6日（月）～12日（日）

会場：大通公園西5丁目



画：梅村 昇史

参加アーティストの岸野雄一が、さっぽろ雪まつり西5丁目会場の芸術監督として参加します。高さ15メートルにもなる大雪像を監修し、この大雪像を使った新作パフォーマンスを披露します。

テレビの歴史を体現している女優、黒柳徹子さんの姿をした天女が、巨大な街頭テレビを携え、商店街に舞い降りている大雪像がパフォーマンスの舞台となります。本作において、テレビは懐かしい過去の映像から、まだ見ぬ未来のビジョンまでを映し出す、向こうの世界とこちらの世界を行き来する装置としての役割をもちます。徹子天女の両側に向かい合う2体の狼は狛犬のような守護獣として、テレビと商店街の世界の季節の移り変わりを見守っています。パフォーマンスには、さまざまな風景が登場します。日本の四季の情景や、七福神として描かれた商店街の店主たち、また、長らく札幌市民の足となり、2015年にループ化された市電をテーマにした影絵もテレビ画面に上映されます。

芸術監督：岸野雄一、出演：岸野雄一、ジョン（犬）、音楽：海藻姉妹、技術協力：クワボリヨウタ、制作：TASKO inc.

主催：さっぽろ雪まつり実行委員会／札幌国際芸術祭実行委員会

#### さっぽろ雪まつり

大通公園、つどーむ、すすきのを会場に、国内外から約200万人以上が訪れる札幌の冬の一大イベント。大通公園では1～12丁目の約1.5kmにわたって大小さまざまな雪氷像が並び、日没から22時までライトアップされる。

<http://www.snowfes.com/>



第68回さっぽろ雪まつり協賛イベント

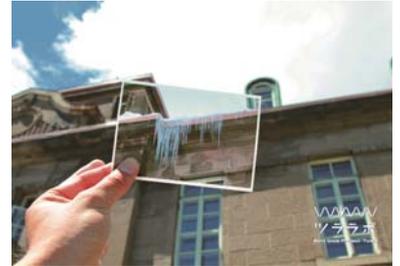
### さっぽろ垂氷まつり 2017

開催期間：2017年2月6日（月）～12日（日）

会場：札幌市資料館（札幌市中央区大通西13丁目）

SIAFラボでは、「つらら（垂氷）」を題材として、雪国ならではの暮らしの可能性や豊かさを再発見するさまざまな実験や取り組みを、「ツララボ」という活動を通して展開してきました。「さっぽろ垂氷まつり2017」では、ツララボの活動をもとに「つらら」をテーマとしたワークショップや展示などを開催し、より多くの方々とその活動の成果を共有します。

<http://siaf.jp/siaflab/>



札幌国際芸術祭デザインプロジェクト連携プログラム

### 地方で、デザイナーが「北海道のクリエイティブの未来」について考える（仮）

開催期間：2017年2月19日（日）～26日（日）※予定

会場：MEET.（札幌市中央区北5条西11丁目）

地方都市にしながら国際的に活躍するデザイナー、クリエイターが札幌に集まり、「北海道のクリエイティブの未来」をテーマとしたシンポジウムを行います。なぜデザイナーにとって課題の多い地方都市で活動をしているのか、また、それらの課題をどのように解決し、いかに地域に根ざしつつ世界を舞台に活躍しているのか、そのノウハウなどについて話し合い、北海道の創造性を育てるヒントを見つけ、今後の活動につながるきっかけを創出します。デザイナー作品の展示なども予定しています。



大風呂敷プロジェクト公式プログラム

### 大風呂敷サミット 2017

開催期間：2017年3月19日（日）、20日（月・祝）

会場：おどおり大風呂敷工場（札幌市中央区大通西4丁目）他

SIAF2017が目指す「市民と一緒に作る芸術祭」の象徴として、カラフルな大風呂敷を市内各所に展開する予定の「大風呂敷プロジェクト」。このプロジェクトを盛上げていくために、「大風呂敷サミット」を開催します。大風呂敷づくりは、2011年「大風呂敷プロジェクト」のディレクションを担当するプロジェクトFUKUSHIMA!によって始められ、今や全国各地へ広がっています。2015年、初回となる「大風呂敷サミット」が東京にて開催されました。今回、各地のメンバーが札幌に再集結し、風呂敷の持つ意味や可能性について語り合います。



撮影：椎木 祥平

#### ○お問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局（広報担当：石田・岡本・山岸）

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 FAX: 011-218-5154 E-MAIL: [press@siaf.jp](mailto:press@siaf.jp) Web: <http://siaf.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/siaf2014info> Twitter: [https://twitter.com/siaf\\_info](https://twitter.com/siaf_info)